

親知らずの基礎知識



こんにちは。
残暑の厳しい季節ですが、
秋の訪れはもうすぐそこです。

体調など崩されませんよう、
くれぐれもお気をつけてお過ごしください。

さて、そんな秋といえば、
たくさんの食べ物が旬を迎え始める実りの季節。

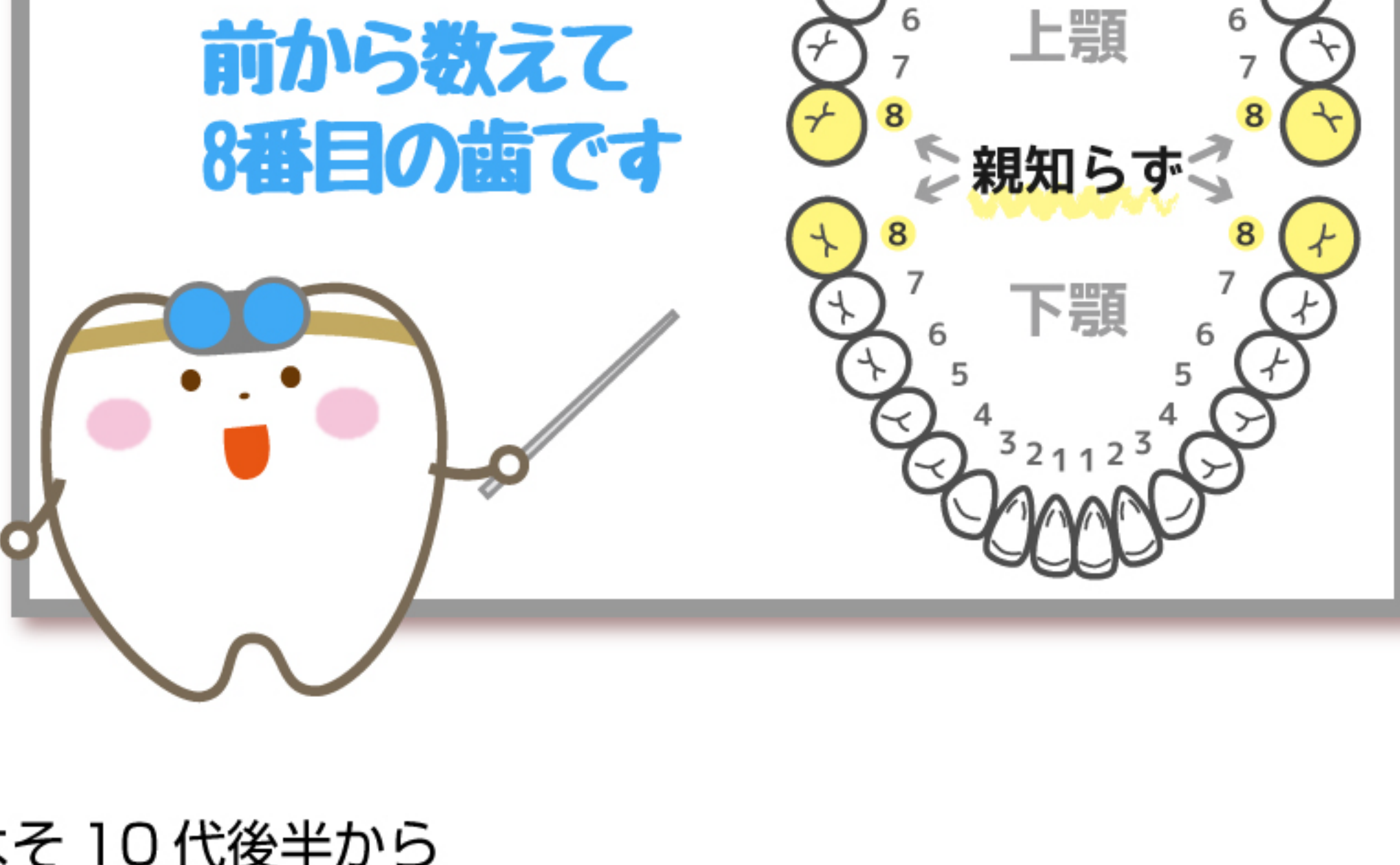
いざ楽しみにしていた食材を実食！

…と、思いきや

「奥に食べ物がよく詰まるようになった」
「のどが痛み、ものが飲み込めなくなった」
「疲れた時に歯がうずく」

なんてことになったら困ってしまいますよね。

実は、これらのケースには
「親知らず」に問題があるかもしれません！



およそ 10 代後半から
20 代前半の時期に生える親知らずですが、
「痛いのに放っておく」と
命に危険を及ぼすことも…？！

そんな親知らずがもたらす危険を
ご紹介いたしますので
この機会に
ぜひ知っておいてください！

【ちゃんと生えないのが当たり前！？】

親知らずは上下左右の一番奥に合計 4 本あります。

生え方は非常に個人差が大きく、

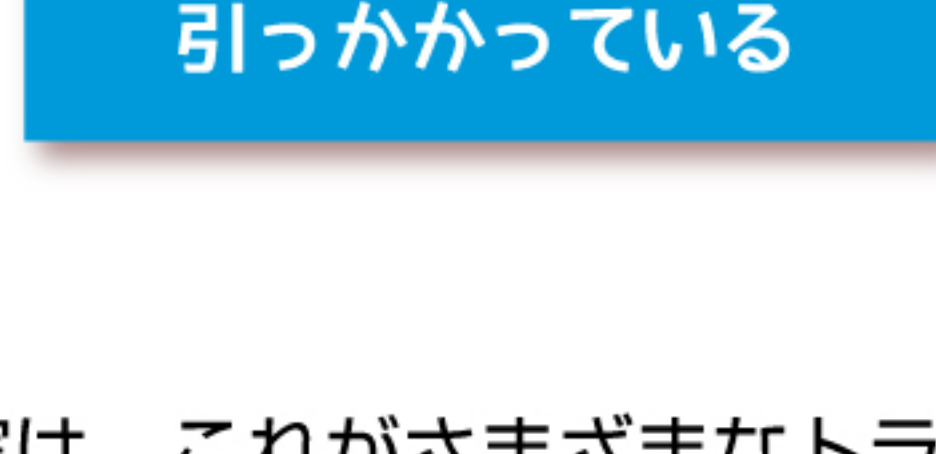
「全く生えてこない」

「1 本～3 本だけ」

「4 本すべて生えている」

それぞれが、3 分の 1 ずついらっしゃいます。

親知らずはしっかり生えてこないケースが多く、
むしろ正しく生えてくるほうが珍しいほど。



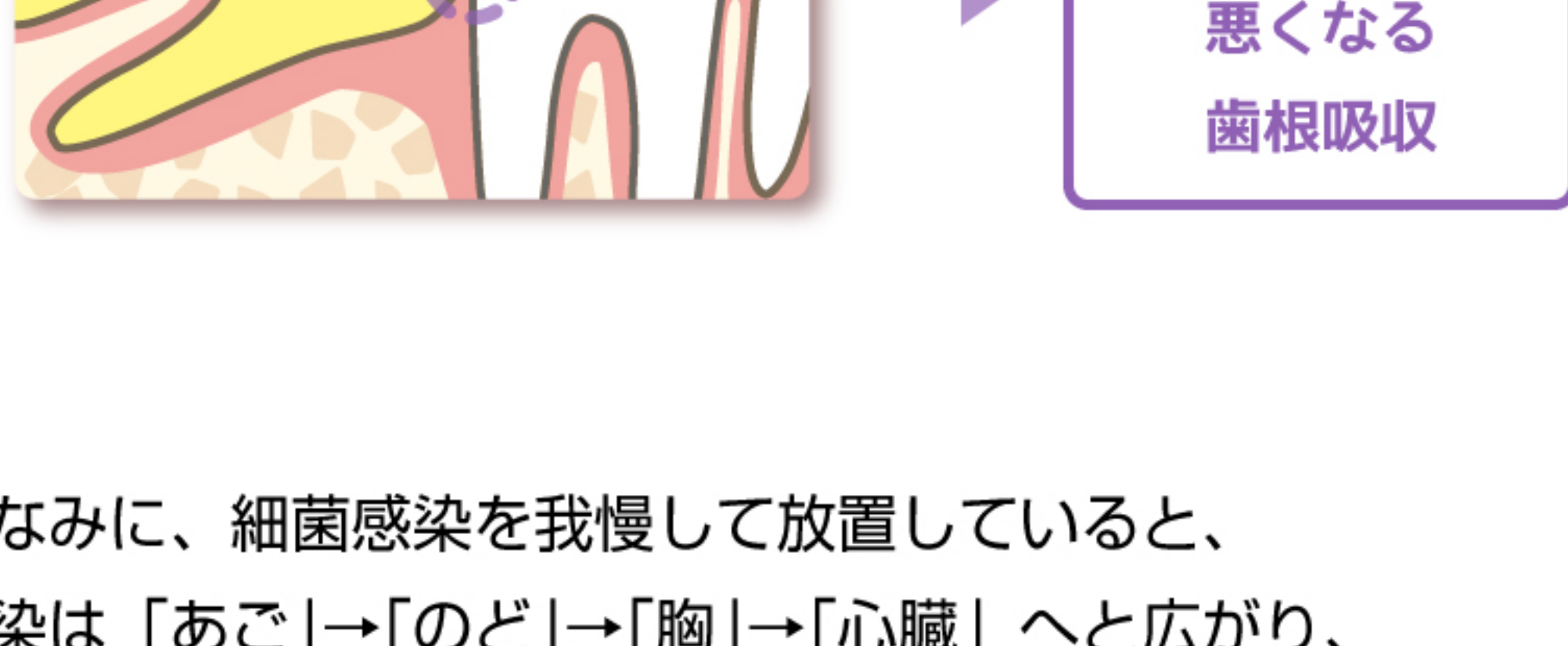
実は、これがさまざまなトラブルの原因となっています。

【あらゆるトラブルの原因に…】

知らずがしっかり生えていないと
歯みがきをしても、みがき残しが多くなります。

これがむし歯や歯周病の原因となったり、
周辺が細菌に感染して炎症を起こす（智歯周囲炎）など
さまざまなトラブルの原因となります。

親知らずを原因とした様々なトラブル



ちなみに、細菌感染を我慢して放置していると、
感染は「あご」→「のど」→「胸」→「心臓」へと広がり、
最悪の場合、死に至る可能性も…。

【結局親知らず、抜くべき？抜かないべき？】

このように、
多くのトラブルを引き起こすことがある「親知らず」。

もしトラブルを引き起こしてしまった場合の対処法としては、
「となりの健康な歯への影響」や、
「治療してもまた再発する可能性」などを考え、
抜歯を検討するのが一般的です。

「抜歯は怖い」

というイメージもあるかと思いますが、
しっかり状態を説明させていただき、
できる限りご要望にそった治療をいたします。

状態によっては**抜かずに温存する**
という選択が**可能な場合**もありますので、
いずれにせよ、**早期にご相談いただくのが**
何よりも大切です。

もし違和感などを感じたときには、
放置せずにできるだけ早めにご相談ください。

美味しい秋の味覚を楽しみ、
新陳代謝を活発にすることで
暑さに疲れた体を癒やし
厳しいコロナ禍を乗り越えましょう！

SEE YOU
NEXT TIME

